

まず知ってほしい
神田外語大学
10のこと

01 教員は世界中から招集した
英語教育のプロ集団

ELI English Language Institute
「英語を母語としない人への英語教育」で修士・博士号の学位を持つELI教員が行う授業は世界水準。すべてが英語で行われ、英語で考え発信する力を徹底的に磨いていきます。

02 日常的に異文化にふれ
留学体験ができる空間

MULC Multilingual Communication Center
中国、韓国、インドネシア、ベトナム、タイ、スペイン、ブラジル・ポルトガルの生活文化を忠実に再現した異文化空間・MULC。外国人教員や留学生との交流の場にもなっています。

03 国内外から注目を集める
「自立学習」の成功拠点

SALC Self-Access Learning Center
豊富な英語教材や機材を備え、専任アドバイザーも常駐している自立学習施設SALC。英語で「聞く・話す・読む・書く」力を個々の学習スタイルでじっくり鍛えていきます。

04 外国人留学生と日本人学生が
ともに英語で日本を学ぶ

JAPAN STUDIES
JAPAN STUDIESでは留学生と日本人学生がともに「英語」で日本の歴史、社会、文化などを論じ合い、学ぶことができます。自国の文化を知ることで、真の国際教養人を育成します。

05 「専門性」を身に付け、
「語学力」+αの強みをつくる

研究プログラム
言葉を学ぶだけでなく、世界で活躍するために欠かせない「教養」を身に付け、専門性と人間力を高める研究プログラムを用意。語学に加えて「専門性」が身に付きます。

06 言語と文化のプロとして
海外で活躍するという選択肢

世界就職
本学では、世界が注目するアジアやイペロアメリカ地域において活躍できる人材育成にも注力。結果、多くの卒業生が、英語+地域言語を活かして世界中で働く「世界就職」を実現しています。

07 千葉県内だけでも
200名以上の実績

英語教員輩出
本学から多くの卒業生が英語教育の道へ進んでおり、加えて中国語・韓国語・スペイン語の教員免許も取得可能。小学校教員免許を取得するための支援プログラムも充実しています。

08 授業料最大50%減免

充実の海外留学制度
留学先で取得した単位は、60単位を上限に卒業単位として認定。休学や留年をすることなく4年間で卒業できます。また留学中の授業料を最大50%減免する制度を導入しています。

09 世界中の企業で
インターンシップができる

GLOBAL INTERNSHIP
世界市場での活躍を前提とする神田外語大学では、インターンシップもグローバル。特に国際ビジネスキャリア専攻においては、国内・海外のインターンシップを必須としています。

10 32カ国で66名が活躍。
外務省在外公館派遣員にも強い。

就職支援 ※2015年3月時点
海外にある日本の大使館・総領事館などで外交のサポート役を務める外務省在外公館派遣員は、この6年間で32カ国・66名を輩出。一般的には経験できないキャリアです。エアライン業界にも延べ50名が内定しています。

物語。家族のつづきの



Tanihata Family



Watabe Family



Furukawa Family



Kawaguchi Family

高校生と保護者のみなさまへ

世界出願

全学科・専攻を
併願できる世界出願

世界を見渡せば、国際共通語である英語に加え、アジア言語など多言語をあやつり、高度な専門性を身に付けた人財が活躍しています。そうした時代が求める人財を育てるべく、様々な教育力を磨いてきた神田外語大学。今後はより多くの若者に成長の可能性を広げたいと考えています。そこで、神田外語大学で学べる全ての学科・専攻を併願できる入試を実施します。いつか世界をつなぐすべての人のための出願。私たちは「世界出願」と名付けることにしました。詳しい内容は本学HPを参照ください。

富山県



息子がいつ帰って来てもいいよう、
地ならしだけはしておくつもりです。

父 谷端信夫さん

世界に誇る伝統工芸「組子」の世界で、
日本を代表するメーカー「タニハタ」の2代目社長を務める。

IBC専攻で英語とビジネスを学び、
いつかは父の仕事を継ごうと思っています。



神田外語
大学

息子 谷端洋佑さん

国際コミュニケーション学科
国際ビジネスキャリア専攻1年(以下IBC専攻)
富山第一高等学校出身



Father 父 谷端信夫さん

「今月こそ倒産か…」。
苦しい状況が続く日々。

「給料を支払うことができない、申し訳ない!」。従業員全員の前で頭を下げる。それが、私が社長に就任して最初の仕事でした。今こそ日本の伝統工芸は国内外で注目されていますし、私たちもおかげさまで10ヵ国近い国々とお取引引きさせていただくなど業績は好調です。しかし私が2代目として会社を継いだ当時は、「今月こそ倒産か…」という状況が続く日々。商売の辛い面を散々味わってきたので、息子に後を継いでほしいと思う反面、無理には言えない部分もあります。「将来どうするんよ?」というような腹の探り合いばかりしていましたね。

異文化を理解する心がなければ、
腹を割って話などできない。

それでも息子が、英語とビジネスを学べるIBC専攻に行きたいと言ってきたときは、思わず「後を継ぐのに最適な進学先だ」と思ったことを覚えています。それと神田外語大学には、海外の街を模した食堂や留学生と交流できるスペースなど、異文化にふれられる施設がたくさんあることも好印象でした。私自身海外の企業と仕事をしていると、相手の文化を理解し尊重する気持ちがないと、腹を割って話ができないということを痛感するのです。単に語学だけを教えるのではなく、異文化を理解する心も育てようとする大学の姿勢は、親として、また1人の社長としても心強く感じました。

伝統は尊いものだけど、
親の考えを押し付ける気はない。

今はまだ将来について、息子と話していません。もちろん本音は継いでほしいですよ。伝統というのは、点と点が途切れてしまえば終わりの世界ですから。とはいえ親の考えを押し付ける気は全くありません。本人が望むなら海外留学もさせてあげたいですし、IBC専攻は国内と海外での必修インターンシップもある。その中でやりたいことが見つければ、当然応援していきます。ただ、もし息子が後を継いでもいいと言ってくれるなら。そのときは、私が味わったのと同じ苦労をさせないよう、できる限り良い状態で引き継げるように地ならしはしておくつもりです。



Son 息子 谷端洋佑さん

とても継ぎたいと思えるような
状況ではなかった。

正直に言えば、小さい頃は父の仕事に対してあまりいい印象は持っていませんでした。当時は会社が大変な状況で、休む間もないほど苦勞しているのは子どもながらに十分伝わってきました。時には父と母が経営のことで喧嘩している姿も目にしていましたから。それに組子に対しても、身近にあることが当たり前で育ってきたので、美しいなんて思ったこともありませんでした。おそらく父は将来後を継がせたいのだろうと感じていましたが、僕自身は苦勞している親の姿を間近に見てきたので、とても後を継ぎたいとは思えませんでした。

将来を見据えて、
英語とビジネスを学べるIBC専攻へ。

転機が訪れたのは高校生の頃。生まれて初めて、組子づくりの手伝いをする機会が訪れました。完成した組子を目にしたときのことは、今も鮮烈に覚えていますね。改めて見てみたとき、その美しさや精巧さに圧倒されたのです。それまでは組子に興味もなかったのに、その日を境に後を継ぐことを意識するようになっていきました。IBC専攻に入ろうと思ったのも、将来を考えてのこと。この頃、父の会社は海外との取引引きがさらに増えていました。なので外語大学のハイレベルな英語と、国内外での必修インターンシップなどビジネスも深く学べるIBC専攻は、まさにうってつけだったのです。

厳しい環境に身を置くことで、
大きな成長につながった。

入学してまだ1年も経っていないのですが、英語のスピーキング力は自分でも驚くほど伸びました。英語で行う授業の多さや、授業以外でも英語を使う環境にすることが何より大きいですね。またIBC専攻はTOEIC®650点以上を取らないと卒業することができないので、そうした厳しさも自分を成長させてくれる要因になっていると思います。卒業までの目標は、最低でもビジネスで使えるレベルの英語力と、基本的なビジネススキルを身に付けること。卒業後、すぐに父のところに戻ろうとは思っていません。まずは他の企業で経験を積むつもりです。そしていつの日か、組子の世界を継いでいきたい。そう思っています。

谷
端
親
子

どんな道に進むにせよ、応援していく。

渡部親子

その頑張りに、刺激を受けています。

娘の頑張りを見てると、「負けてられない!」と思います。

母 渡部房恵さん



北海道



神田外語大学

「やりたいようにやりなさい」という言葉に、いつも励まされてきました。

娘 渡部真奈さん

イベロアメリカ言語学科
ブラジル・ポルトガル語専攻2年
北海高等学校出身

Watabe Family



Mother 母 渡部房恵さん

不安を安心に変えてくれた、出張公開講座での対応。

神田外語大学の話を娘から具体的に聞いたのは、あの子が高校2年生のときでした。北海道で開催されていた出張公開講座に出席したところ、非常に印象が良かったそうです。一方通行の授業ではなくコミュニケーションを大事にしていて、先生方はみな熱心。「キャンパスの見学に行く予定があるなら、連絡をくれれば学内を案内しますよ」と仰ってくださった先生もいたようで、オープンな雰囲気に感銘を受けたみたいでした。もし入学が決まった場合、娘は全く知らない土地で暮らすことになるわけですから、大学側のそうした姿勢は親としても大変ありがたいと思いました。

親馬鹿かもしれないけれど、たしかに成長している。

娘が北海道を離れて神田外語大学に通うと決まったとき、周りのお母さんたちは「本当に!?!」という反応でした。高校卒業後も道内に留まる子が多い中、一人娘が千葉まで出ていくわけですから、正直私も不安はありました。ただ親馬鹿かもしれないですが、勉強はもちろん日々の自己管理もしっかりできている様子が伺えますし、娘はよく頑張っているなと思います。大学内で、「キャンパスアドバイザー」というオープンキャンパスのお手伝いも頑張っているそうで、周りには優秀な先輩たちから刺激を受けていると言っていました。そうした話を聞くと、神田外語大学に進んで正解だったと思います。

色々なものを吸収して、「何ができるか」見極めてほしい。

将来どの道に進むかはまだ決めていないようですが、就職活動が始まるまではとにかく色々なことを吸収してほしいと思います。勉強にしても、英語を個別で指導してくれる施設があると聞いていますし、そうしたものを活用して「自分に何ができるのか」を見極めてほしいですね。最近は娘の成長を見守るだけでなく、刺激も受けるようになってきました。私も昔英語と中国語を勉強していたので、改めて勉強し直そうかなと思っています。「お母さんも負けてられない!」という気持ちにさせてくれるほど、娘の頑張りは立派なものです。



Daughter 娘 渡部真奈さん

家族そろってアントラーズのファン。自然な流れでブラジル・ポルトガル語専攻へ。

日本ではポルトガル語はあまりメジャーな言語ではないと思いますが、私にとっては馴染み深いものでした。渡部家は一家そろって、ブラジル人選手が数多く在籍している鹿島アントラーズの大ファン。「ポルトガル語が喋れれば、ブラジル選手と会話できるね」とよく母と話していたので、その道に進むことは自然な流れでした。一方で両親から「これからは英語ができて当たり前。英語もしっかり勉強して」とも言われていました。ブラジル・ポルトガル語専攻は、ポルトガル語と英語を同じ比率で学ぶ「ダブルメジャー」。その制度があったことも入学のきっかけになりました。

教職課程の履修を決心した、母からのアドバイス。

母とは小さい頃から仲が良く、よく色々な相談にのってもらっていました。いま教職課程を履修しているのですが、それも母からのアドバイスがきっかけです。「大切なのは外国語ができることじゃなくて、「外国語を使って何ができるのか」。だから取れる資格は取っておいたほうがいいよ」と言われ、履修を決めました。それと母自身も昔小学校の先生をしていたので、教員という仕事をよく理解しているというもあつたと思います。よく「学校の先生は楽しいよ」と言われますし、もしかしたら娘にも同じ道を歩んでほしいと内心は思っているのかもしれませんが。

どんなときも背中を押してくれた母の存在。

入学して2年。自分自身、大きく変わったと思っています。元々人前で話すのが苦手だったのですが、授業ではプレゼンテーションやグループワークが頻繁にあるので、以前に比べかなり積極的になれました。語学の面でもポルトガル語、英語のスピーキング力が大きく伸びたと思います。こうして好きなことを学んでいるのも、常に背中を押してくれる母の存在が大きいですね。プライベートや将来のこと。これからも、何かあるごとに母に相談すると思います。そのたびにきっと、「やりたいようにやりなさい」と言って、私の背中を押してくる。そんな気がします。

神奈川県



挑戦することの素晴らしさを
息子が思い出させてくれました。

父 古川満さん



神田外語
大学

父はいつも最初の壁。
それを乗り越える度に成長できます。

息子 古川大さん

アジア言語学科 インドネシア語専攻3年
神奈川県立大磯高等学校出身

Furukawa Family

古川親子

いつか一緒にインドネシアに行こう。



Father 父 古川満さん

大学では勉強以外の時間も大事。
だから県内の進学を強く薦めた。

合格していた大学を蹴ってまで神田外語大学に行きたいと言いだした時は驚きました。ただ、インドネシア語専攻に絞っているあたりに何か決意を感じましたし、本人がそこまでやりたいなら応援しようと腹はくくっていました。問題は毎日往復5時間の通学時間。大学では部活やアルバイトなどから学ぶことも多いため、自宅に近い大学を薦めました。本人がそれでも行きたいと強い意志を見せたので1年間は様子を見ることにしたんです。文句ひとつ言わず、1年間、しかもアルバイトもしながら通いきった姿を見たら、一人暮らしを許すしかなかったですね。根負けです。

インドネシアへの留学で
人間的にも成長していることを実感。

息子を見ていると「人に対して優しくなった」と感じます。おそらく1年生の時に行ったインドネシア留学で、3世代と一緒に住む家にホームステイした体験が大きいのではないかと思います。自分とは違う世界を五感で感じ、深い人間関係にふれたことで、人本来の在り方を考えるきっかけになったのではないのでしょうか。また、留学先のマラン大学の学内新聞に、現地でお世話になった先生と抱き合って号泣している写真が載っていて、本当に心を揺さぶられる経験ができていたことをうらやましく思います。息子の成長を見ていると、忘れかけていたチャレンジ精神を思い出させられます。

将来は自分で切り拓けばいい。
悔いのない選択をしてほしい。

将来のことは、気にはなりますが、心配はしていません。神田外語大学での3年間で、人間性も語学力も格段に成長していますし、他では獲得できない財産が彼の中に蓄積されていることは間違いないからです。社会に出ると壁はたくさんありますし、その都度簡単には方向転換はできません。映画に携わる仕事がしたいと将来の話は少し聞いていますが、好きなことで生きていくためにも、残りの大学生活でどんな障害をものねのけられる自分を仕上げしてほしい。いつの日か、彼の原点でもある家族で行ったバリ島にもう一度みんなで行ける日を楽しみにしています。



Son 息子 古川大さん

後悔しなくなかったから
卒業式後に0からもう一回大学を探した。

第一志望の受験には失敗したものの、滑り止めには何校か合格していたので、そこに進学することもできたのですが、どうしても自分自身が納得できず、「もう一回チャレンジさせてほしい」と両親を説得しました。その時出会ったのが神田外語大学でした。施設、考え方、グローバルな環境…すべてが魅力的で、その時の興奮は第一志望校以上。あんなに胸が高鳴ったのは生まれて初めてでした。でも受験を決意したのも束の間、目の前には父の壁が立ちちはだかったんです。「片道2時間半だぞ。週の何日分を移動に費やすつもりだ?」。自宅から通学できること。それが絶対条件でした。

父との約束を果たし、
企画書をつくって改めてプレゼンテーション。

朝6時に家を出て、深夜1時に自宅に帰る生活を1年間続けました。もう意地でしたね。でも、インドネシア語を学ぶことがどんどん楽しくなり、もっと腰を据えて勉強したいと考えるようになり、「一人暮らしをさせてください!」と願い出ました。親の不安を払しょくできる材料と、時間ができると生まれるメリットを整理しての一大プレゼンテーション。正直それでも反対されると覚悟していたのですが、1年間は約束を守った努力が認められて、晴れて一人暮らしが許可されました。大学生になって親とここまで向き合うことになるとは思っていませんでした。

インドネシア語を活かして
新しい分野に挑戦したい。

インドネシア語という地域言語を専攻しようと思った一番のきっかけは、中1の時の家族旅行です。バリ島で子どもの物売りに囲まれるという経験をして、「あの時、言葉が話せれば状況は変わっていたかもしれない」という想いがずっと心にひっかかっていました。初めての言語なので、勉強した分だけできるようになる。それが面白くて留学にも積極的に行きました。今考えている将来の夢はインドネシアと日本を映画でつなぐ人になること。「映画の仕事」ということで、両親の頭には「?」が浮かんでいると思います。またじっくり話していきます。

川口親子

千葉県



娘が大学で学ぶことで私も知らない世界を知ることができました。

母 川口直子さん



神田外語大学

どんな時もうんうんと話を聞いてくれた。母がいたから安心して挑戦できました。

娘 川口小雪さん

英米語学科4年
敬愛学園高等学校出身

2人で話す時間をずっと大切にしようね。



Mother 母 川口直子さん

小さい頃からの真っすぐな夢を反対する理由なんてありませんでした。

先生になりたいという夢は、小学校の頃から聞いていました。小学校3年生から英語の塾に通い始めて、いつも大げさに喜んでくれて気持ちを乗せてくれるのが上手な先生が娘は大好きだったので、きっと影響されたのだと思います。神田外語大学を受けたいと言った時は、娘が小さい頃、一緒に英検の受験で行った時の「キャンパスがきれい」というイメージしかありませんでした。第一志望にしていた国公立大学に比べ、金銭的な部分を考慮する必要はありましたが、小さい頃から夢に向かって頑張っている姿を見てきたので、この子の決めたことなら応援しようと思いました。

大学に入ってから知った娘の新たな一面。

先日娘のサークルの見学で学園祭に伺ったのですが、ステージで歌って踊る姿を見て、ビデオカメラ片手に正直驚いていました。この子、こんなにも行動的だったんだって。入学してから気づけば、サークルをいくつも掛け持ちして、アルバイトもして、ボランティアもするという毎日。忙しい時は帰ってくるのが23時過ぎだったりで、同じ家にいるのに話す時間がとれず寂しいと感じることもありましたが、忙しそうないきいきして見えました。たまに留学や東北でのボランティアの話などしてくれた時は、私が知らない世界を娘から教わっているような感覚でした。

良く言えば手がかからない子。だからこそたまには頼ってほしい。

これからも自分でどんどん道を拓ける子だと思っているので心配はしていません。しかし働き始めると、悩みや、辛いことだって出てくると思います。そんな時はいつでも話してほしいです。良いアドバイスはできないかもしれないけれど、話はいくらでも聞いてあげられるよ。最初は教育学部と言っていましたが、神田外語大学に来て本当に良かったなと思います。学内はもちろん、留学先でできた友人や、教職関係の先輩後輩など様々な人とつながり、色んなことを学んできたのを知っています。知識だけでなく、そういった大切なことを教えられる先生になっていってください。



Daughter 娘 川口小雪さん

どうしても先生になりたかった。そんな時に会った英米語学科という道。

英語の先生になりたい。志望校はその夢を実現することを軸に選び、当初第一志望は他大学の教育学部でした。しかし良い結果が出ず、このままでいいのだろうか悩んでいた時に高校の先生に中高の英語の教員免許をとれる神田外語大学を薦められました。もう2月で複数校受験した上に合格している大学もあったので、改めて受け直すとなると受験料もかかり申し訳ないという気持ちがありましたが、神田外語大学でちゃんとした“英語”の先生になるための力をつけたいと思い、母に相談。母は反対するどころか、「チャレンジしてみなさい」と言ってくれました。

自分を出す大切さを学んだマレーシア留学。

1年生のおわりに1カ月間マレーシアに留学に行きました。初めての海外で英語がどれだけ通じるとワクワクだったのですが、いざ行くとなかなか意見が言えず、アイデアも伝わらない悔しい経験をしました。その経験から、もっと自分を積極的に出し、意見を発信していかなければ理解してもらえないと気づき、悔しかった分だけ行動的になりました。結局4年間で、英語のミュージカルサークルに入ってみたり、小学生に英語を教えるサークルの代表をしたり、東北にも先生のボランティアに行ったり。大変でしたが忙しさが心地よい日々でした。

春からは高校の先生に。英語が使える楽しさを伝えていきたい。

卒業後は英語の先生として千葉県内の高校に勤務します。生徒たちには、英語が使えるとこんなにも世界が広がるのだと実感してもらいたい。また、一人ひとりのレベルに合わせて教えられる、専門性の高い先生として活躍していきたいです。そうして神田外語大学の名に恥じぬよう、成長していこうと思います。普段口数は少ないけど、受験の時にお弁当を開けたら頑張ると書いてあったり、いつも陰ながら応援してくれたお母さん。あの時背中を押してくれたおかげでこんなにも自信をつけて先生になることができました。社会人になってもいっぱい話を聞いてください。

神田外語大学は 家族の絆が強くなる 場所でもある。

お子さまから進路の話をされた時のこと、
留学を経験してたくましくなって帰省した時の喜び、
高校の頃とは見違えるほど大人になった実感など、
進学には、家族の数だけドラマがあります。

この冊子では、
神田外語大学で学ぶことを選ばれたお子さまを持つ
実際の保護者のみなさまにご協力いただき、
大学選び、成長の実感、将来についての考えなど
率直な想いを親子それぞれの視点から語っていただきました。

夢に向かってまっすぐ突き進むお子さまの姿に、
保護者のみなさまも大きく心を動かされています。
大学は、家族の絆を強くすることもできる。
そんなことを改めて実感しています。

私たち神田外語大学は、創立以来、
グローバルに活躍できる人を育てることに對して
一切の妥協を許さず、設備、教員、制度、カリキュラム、
キャンパス環境のすべてを整えてきました。
お子さまの可能性を引き出し、必ず成長させる。
厳しい社会を自分の力で生き抜く力を授ける。
その責任と自信が私たちにはあります。
そして、その姿勢はこれからも変わることはありません。

大学を選択される際、
どうぞ私たちの覚悟と、ここで4年間を過ごされている
親子の物語を思い出していただけますと幸いです。

最後になりましたが、
みなさまの進路選択が悔いの残らないものになることを
心よりお祈り申し上げます。

Q & A 保護者のみなさまからよくいただくご質問

Q. 総合大学でも最近では語学教育に力を入れています。神田外語大学との違いは何ですか？

A. 本学には、外国語としての英語教育の修士・博士号学位を持つ、「語学教育のプロフェッショナル」が数多く在籍しています。また豊富な英語教材や機材を備え、専任アドバイザーも常駐している自立学習施設「SALC」や、各国の文化・街並みを忠実に再現した空間「MULC」など、環境面で大きな違いがあります。

Q. 授業は全て外国語で行われますか？

A. 授業により異なりますが、言語のトレーニングに関するクラスでは外国語のみで行われることが多くあります。それ以外のクラスでは担当教員や内容によって使用言語が異なります。

Q. どのような資格を取得できますか？

A. 教職課程、日本語教員養成課程、児童英語教員養成課程があります。また、資格取得に挑戦する学生を応援するために、学外の検定試験の単位の認定や、レベル別にTOEIC®のスコアをのばすための授業を開講しています。

Q. 外語大学は、総合大学に比べ就職活動で不利になることはありますか？

A. 基本的にはありません。今後は社会全体で語学力のニーズが高まるため、外語大学で鍛えた専門的なスキルは大きな強みとなります。また本学では1年次からキャリア教育を行い、3年次には「ビジネスインターンシップ(国内外)」も実施。就職への意識を早い段階から高めていきます。

Q. どのような就職支援がありますか？

A. 海外にある日本の在外公館(大使館・領事館などで働く外務省在外公館派遣員は、この6年間で32カ国に66名を輩出(2015年3月時点)。また人気が高いエアライン業界では、2015年3月卒業予定者で延べ50名が内定。専門知識を持ったスタッフによるきめ細かいサポートシステムで、学生の不安や疑問をサポートしています。

Q. 留学中の学費はどうなりますか？

A. 留学における経済的負担を減らすため、留学中の授業料が最大50%減免になる海外留学支援制度を導入しています。また生活費が欧米圏の1/3程度に収まるアジア圏での英語留学プログラムを拡充するなど、留学しやすい環境も整えています。

Q. 子どもを留学させた場合でも、4年間での卒業は可能ですか？

A. 本学の海外留学期間は、最長1年間。留学先で取得した単位は、60単位を上限に卒業単位として認定されます。そのため休学や留年をすることなく、4年間で卒業できるのが特徴です。2014年度はこの制度を利用して、実に159名もの学生が3ヵ月~1年間の留学を行いました。

Q. 学生寮はありますか？

A. 本学が直接、管理・運営を行っている女子寮があります。部屋はワンルームタイプ。信頼のおける寮長夫妻が管理人として居住し、日常生活を全面的にサポートします。また留学生別科で学んでいる女子留学生も暮らしており、寮内でも語学力やコミュニケーション能力を磨くことができます。

Q. 遠方から通学している学生はいますか？

A. 関東近東の場合、片道2時間半程かけて通学している学生がいます。座って通学できるため英語の勉強など時間を有効に活用できる、一人暮らしよりも経費がかからない、といったメリットがあります。

Q. どのような部活動・同好会がありますか？

A. 踊りや音楽、語学など、外国の文化にふれられる部活動・同好会が非常に多いのも神田外語大学ならではの。学科や学年、国籍を越えて活動していくことで、一生の仲間を見つけることができます。

教育内容

就職

留学

設備

通学

課外活動